

国立大学法人鹿屋体育大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、スポーツ科学・体育学領域における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、教育研究の成果を広く発信するとともに、開かれた大学として、生涯学習の機会の提供、教育研究資源の開放、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ文化の向上に貢献すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、鹿屋市等と協力して、プロスポーツ選手を受け入れ、動作解析等による支援やトレーニング環境の提供を行っているほか、主にアジア諸国の大学院レベルの学生やトップコーチ等を対象に、アジアでのオリンピック教育プログラムの開発とグローバル人材育成を目的とした「鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー」を開始するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、体育・スポーツ領域の学術をリードしていくための教育研究の強化を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、筑波大学との連携で大学院体育学研究科に修士課程及び3年制博士課程の平成28年度共同専攻設置に向け、両大学の教職員からなる運営委員会で検討を重ねるとともに、平成27年度に実施する「共同学位プログラム」について情報提供を行うため、筑波大学及び独立行政法人日本スポーツ振興センターと共催でシンポジウムを開催している。

（機能強化に向けた取組状況）

「スポーツパフォーマンス研究棟（SP Lab）」において、フォースプレート、モーションキャプチャー、高速度カメラ等、様々な測定機器を配置し、実際の競技現場におけるパフォーマンスを分析・評価する研究環境を整備している。さらに、ウェブジャーナル「スポーツパフォーマンス研究」において、24篇の論文を掲載し、競技力向上のためのトレーニング法等、スポーツにおける実践活動に寄与する知見を広く公表している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

〔2〕財務内容の改善に関する目標

〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部資金獲得支援と成果

外部講師や科学研究費助成事業を複数回採択された経験のある研究者による説明会、戦略的研究プロジェクト企画推進室員による申請書作成アドバイス業務などの取組により、平成 26 年度の外部資金比率は法人化以降、最も高い 3.8 %（対前年度比 2.2 ポイント増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

〔3〕自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

〔①評価の充実、②情報発信等の推進〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 集中管理可能な年度計画管理システムの構築

大学独自に構築した「年度計画進捗管理システム」により年度計画の進捗状況を集中管理し、毎月、各年度計画の実施状況を執行部が確認しているほか、各課・室及び学内共同教育研究施設（センター）等の長に対して、学長によるヒアリングを実施し、実行が遅れている計画について、対応を促している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

〔4〕その他業務運営に関する重要目標

〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 17 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 屋外競技場のICT活用環境の整備

急速に進むデジタル化に対応したスポーツ指導法の開発と次世代のスポーツ指導者養成推進のため、可搬式大型映像呈示装置、ネットワークカメラ、無線 LAN システムの整備を行い、従来は難しかった屋外競技場での大画面による映像呈示や無線ネットワークへのアクセスを可能にしている。

○ 競技力向上に向けた積極的な支援

「鹿屋体育大学国際競技大会特別強化指定選手の選考及び特別強化支援要項」に基づく選考を実施するとともに、対象選手 8 名を選出し、国際大会で活躍できるようなトップアスリートを育成・輩出するため、海外遠征に係る費用の支援や科学的・栄養的なサポート等の支援体制を整備している。

○ 地域と連携したプロスポーツ選手に対する支援

鹿屋市との包括連携協定に基づき、産学官連携による「スポーツ合宿まちづくり推進事業」を継続的に展開し、鹿屋市等と協力して、プロサッカー選手、プロ野球選手、プロゴルファーを受け入れ、動作解析等による支援やトレーニング環境の提供を行っている。

○ オリンピックに向けた国際交流の推進

主にアジア諸国の大学院レベルの学生やトップコーチ等を対象に、アジアでのオリンピック教育プログラムの開発とグローバル人材育成を目的とした「鹿屋体育大学国際スポーツアカデミー」を開始し、国内外に向けて「第 1 回オリンピックマネジメントセミナー」（参加者：32 名）及び「第 1 回鹿屋体育大学国際スポーツアカデミーシンポジウム」（参加者：108 名）を開催している。